

次期会長に細井拓一氏

地震被災会員への見舞金で当局に要望

妙心寺派花園会全国会長会

臨済宗妙心寺派の檀信徒会である花園会の全国（教区）会長会が一月三十一日、大本山妙心寺で開催され、川村伸会長の任期満了に伴い次期会長に京都両丹教区花園会長（京都府加悦町宝勝寺檀徒）の細井拓一氏を選んだ。任期は四月一日から二年間。またこの日の会議では、兵庫県南部地震で被災した花園会員に対する見舞金支給についても話し合われた。

当日は開山堂拝塔のあと、午前九時過ぎから微妙殿で松山寛恵管長臨席のもと開会式を挙行。引き続き宗務本所議場に会場を移し、直ちに議事に入った。

川村伸会長（四国西教区）が三月末で任期満了を迎えることに伴い実施された役員改選では次期会長に細井拓一氏を選出。次期副会長には兵庫教区花園会会長の高見宇三郎氏（兵庫県中町崇福寺檀徒）と北関東教区花園会長の石田薫氏（埼玉県寄居町清本寺檀徒）の二人を互選した。任期はともに四月一日から平成九年三月末までの二年間。

会長の細井氏は全国花園会の現副会長。昭和七年生まれ、六十二歳。京都大学農学部卒。京都府加悦町議、同議長、加悦町長を経て昭和六十二年から京都府議会議員。府議会新政会幹事長、裏千家淡交会宮津支部長なども務める。

会長会はこの他、平成六年度事業報告、平成七年度事業計画案及び兵庫県南部地震の被災者救援、宗制の花園会規程改訂案について協議。花園会会員の被災者に対する支援については、通常会計の花園会本部所管費に含まれている災害見舞費の基金取り崩しもふくめて、見舞金支給に柔軟な姿勢をとるよう宗務当局に要請した。また、花園会規程の改訂に関しては、当局の改訂案を原則的に承認した。

なお、会長会は一一人一万円ずつの被災者義援金を拠出したが、委託先については検討中。

障害者、高齢者介護へ

兵庫県南部地震の現地入り

同朋大学の有志学生ら120人

真宗大谷派の宗門関係校、同朋大学(池田勇諦学長、名古屋市中村区)は兵庫県南部地震で被害を受けた障害者、高齢者の介護などで計百二十人の学生を派遣する。

これは社会福祉学部や文学部の有志学生らが「被災した障害者のお役に立ちたい」と現地でのボランティアを希望、同大学生課の援助で実現したもの。春休みを利用して、まず約五十人の学生が五日と十三日、同大の用意した大型バスで現地へ向かう。

一行は大阪市の大阪ろうあ会館、大阪障害者センターなどに避難している障害者の介護、手話通訳を行なうほか、兵庫県西宮市などの被災地へ入り、避難先が確認されていない障害者の安否調査などにあたる。この後、五十余人の学生が交代要員として待機しており、要望を聞きながら順次現地へ向かうことになっている。

学生たちの宿泊所は大谷派大阪教務所(中林徳雄所長、大阪市中央区)が無料で提供。ここを拠点に一週間から二週間、長い学生で三月末まで活動が続ける。

同大では今後も継続して支援を行なう計画で、有志学生たちの活動に応じて随時援助していく方針だ。また、被災地の福祉センターなどで人手が足りなければ学生課まで申し出てほしいと呼びかけている。

現在、被災地では約三分の一の障害者らが、学校などに設けられた避難所では「他人に迷惑がかかるから」などとして自宅を離れず、日常生活でかなり不自由しているという。また、消息のつかめない障害者も多く、ボランティア学生たちの活動が期待されている。同大の田代俊孝教授は「社会福祉学部の学生は介護法や手話などノウハウを学んでいる。まだ、“卵”だが、精いっぱいやってくれるはず」と語っている。
